The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 21 | Issue 3 | March 2018

In this issue...

▶02...就学奨学金
▶04...Japanese New Year Party
▶08...K3 Friendship Bench
▶08...G4ｳｫｰﾀｰﾊﾞﾙｰﾝﾄﾞﾛｯﾌﾟﾁｬﾚﾝｼﾞ
▶09...G3算数能力診断テスト
▶13...あるがままの自分
▶17...Screen Time
▶22...Academic Writingでの成功！
▶26...美女と野獣 Jr.
▶27...ｼﾞｬﾊﾟﾝﾒﾄﾛﾎﾟﾘﾀﾝ模擬国連会議
▶28...G9 NABへの郊外学習
▶36...Spring University Fair

「教育は、人々の生活を向上させ、コミュニティや世界を今よりも良い状態にするためのものである。」
—Marian Wright Edelman

学校長より

KIST コミュニティの皆さん、

私からの *The Comet* のお知らせはいつもこの言葉で始まっているような気がしますが、今学年度もあっという間に過ぎていき、もう春がすぐそこまで来ています。

前回の *The Comet* 以降も皆さんにお伝えすることがたくさんおこりました。

2月16日にはWorld Cultures Day が開催されました。KIST図書チームは今回も生徒たちが自身の文化を共有し、コミュニティメンバーの文化を学び、理解するための素晴らしいイベントを企画してくれました。Community Association（CA）のベイクセールも大成功で、80,000円の売り上げがありました。これはKISTの図書プログラム支援のために使われます。このイベントでボランティアしてくださったCAと、保護者の皆さんに感謝します。また、イベントにプレゼンターやパフォーマーとして貢献してくれた生徒と教職員にも感謝します。そして勿論、World Cultures Dayに向けて毎年、何時間も準備に費やしてくれる図書チームにも感謝しています。

そして、恒例のNew Year's Partyは今年も大成功に終わりました。サポートして下さったCAの皆さん、ありがとうございます。また、毎年このイベントのために多大な貢献をしてくださっているSakamoto Familyに**大きな感謝**を捧げます。このイベントは生徒やスタッフに大人気で、皆この時期を心待ちにしています。ホスト国である日本の文化を生徒たちが楽しく体験する機会を提供してくださっているコミュニティの力強いサポートに感謝致します。

今年から、一部の教員リーダーのサポートもあり、Mr Cowe がセカンダリーの保護者の皆さんと、KISTでの奉仕活動（Service）や数学・英語の評価方法など、様々なテーマについて話し合うコーヒーモーニングを主催しています。このイベントは好評で、毎回多くの方が参加してくださっています。お忙しい中、セカンダリースクールのプログラムについて知るために参加してくださっている保護者の皆さん、ありがとうございます。

春に開催される幾つかのexhibitionはコミュニティが一体となって生徒の学習の成果を祝うという意味で、私のお気に入りの学校行事です。今年その先陣を切るのはG10の生徒たちがMYPと集大成として自身のリサーチや学習成果発表するMYP Personal Project Exhibitionです。皆さんがこの記事を読まれている頃にはもうPersonal Project Exhibitionは終了していますが、今からゴールデンウィークまでに後2つexhibitionが予定されています。まず、3月13日から20日までエレメンタリー校舎のロビーで行われるDP美術のexhibitionです。今年はこれまでと趣向を変え、日によって違った生徒の作品を展示します。是非、生徒たちによる素晴らしい芸術作品を鑑賞しにいらしてください。

次のページに続く

Dates to Remember

March 2018

10 SAT@KIST
14 (G2-G3) Mathematics diagnostic testing
15 (K1/K2/K3) Kindergarten concert rehearsals
15 (K1/K2/K3) Kindergarten concert (*Morning)
16 DP Art exhibition
21 (W) Student-led conferences
21 (W) Spring university fair
21 (G10) DP options morning
23 Last day of quarter 3
24-Apr 1 Spring vacation

April 2018

2 School resumes for all students
6 (G1-G10) KIST cross country meet
9 School photographs (for new and absent students)
11 (K1/K2/K3) Cross country (*Morning)
13 Screening of SCREENAGERS (*Afternoon)
18 (G7-G11) KPASS Math field day (Hosted@Zama)
20 ISTAA cross country invitational (*Tentative)
20 (G12) Last day of classes
23-27 (G12) DP study week (G12 teachers available)
26-27 (G5) PYP exhibition

PYP | MYP | DP

WE ARE A CIS ACCREDITED SCHOOL

前ページの続き

そして、4月の27日は学校の体育館でPYP Exhibitionが行われます。このイベントは学校コミュニティ全体に公開されていますので、G5の生徒たちの10週間に亘る学習の成果をともに祝うためにお越しください。これらのExhibitionはどれも担当する教職員の尽力なしには実施できないものです。Mr White、Mr Jones、Mr Grant、Mr Archibald そして Ms Parkinson の素晴らしい指導と、生徒たちをサポートしてくださっているその他の教職員の皆さんに心から感謝します。皆さん、本当にありがとう！

また、保護者の皆さんは4月13日のスケジュールを是非開けておいてください。その日、KISTでは人気のあるドキュメンタリー映画SCREENAGERS: Growing up in the Digital Age（デジタル世代の子供たち）を保護者向けに上映します。お子さんが安全に、そして責任を持ってテクノロジーを使用することをサポートするために、できるだけ多くの保護者の皆さんにご覧いただけたらと願っています。このイベントの実現にご協力 下さったKIST Community Association（CA）に感謝します。この上映会の詳細と予約方法は今号の*The* Cometの18ページに掲載しています。

今朝、G12のホームルームで、生徒たちがKISTを卒業し、人生の次のステージに旅立つまであと98日しかないと教えてくれました！ 2018年度の卒業生は（彼等が8年生当時）私が直接指導した最初の生徒たちです。ちょうど私がKISTで再び勤務することになった年でもあったため、個人的にも特別に思い入れのある生徒たちです。今号が発行される頃、12年生は2回めのMock（模擬試験）を終えている頃でしょう。これは学校が、5月の「本番の」IBDP試験に向かう前の生徒たちをサポートするために提供しているものです。1月の模擬試験の結果は非常に良好だったため、今年も良いDP結果が得られると楽しみにしています。春は、G12の生徒たちが世界中の大学から合否を受け取る時期でもあります。生徒たちの努力が報われ、合格したという報告を受け取るときほど嬉しいことはありません。皆さん、良く頑張りました。この結果は皆さんの努力の結晶です！そして、模擬試験での皆さんの幸運を祈ります！

最後に、このニュースレターの発行に尽力してくださったMr Larsen、Ms Wakasa、そしてコミュニティメンバーの皆さん、「ありがとうございます」。皆さんが*The Comet* 今号を楽しんでくださることを願っています。そしてこれからのイベントで皆さんとお会い出来ることを楽しみにしています。

皆さん、これまで本当によく頑張りました。そして春のお花見をぜひお楽しみください！

Jeffrey Jones
Head of School

就学奨学金

就学奨学金（KIST Study Scholarships）は学校の創立者である小牧ご夫妻によるものです。創立者からの寛大な個人的寄付により提供されます。G10、G11、G12の生徒が対象になります。学校のミッションや基本原則に沿い、学校に素晴らしく貢献し、また学校精神の本質の見本となった生徒に支給されます。今年は、12名の出願者のうち5名が奨学金を受け取りました。奨学金獲得者の皆さん、おめでとうございます!

KIST Study Scholarships

Silver Awards

Emiri

Hyunjeong

Igor

Bronze Award

Nimit

Sara

理事長よりご挨拶

マナー、挨拶

毎朝私は校門の所で登校してくる生徒や保護者の方に 'Good morning!' と挨拶をしています。特別な用事がない限りはそうしています。そうすることで生徒の皆さんの日々の様子がよく分ります。名前は覚えていなくてもこの子はいつもより元気がないとか、いろいろと感じることが出来ます。又、活気溢れる生徒の皆さんから元気をもらっています。

その中で特に気になっていることがあります。きちんと挨拶が出来ない子がたくさんいるのです。'Good morning!' と言っても挨拶を返さず、中にはそっぽを向いて通り過ぎる子がたくさん居るのです。これはセカンダリー、エレメンタリーを問いません。国籍も問いません。雨の日混雑する時間帯にはゲートを開けて生徒を迎えるのですが、'Thank you!' と言う子はあまりいません。自分から先に挨拶してくれる子はもちろんいますが、挨拶を返すこともせずに黙って通過していく生徒の多さに正直愕然とさせられます。
保護者にもそのような方をお見かけします。

ある日本のスーパーメガバンクの支店長が訪問先から支店に帰ってきた直後にたまたま部下の行員が帰ってきたので扉を開けて待っていてあげたらその行員は礼も言わずに入って行ってしまい、その行員が日本の超一流大学の出身者だったので心底がっかりしてしまったという話を当該支店長から直接聞いたことがあります。

私は上下関係に伴う礼儀のことを言っているのではありません。この支店長はその行員が扉を開けてくれたらきっと 'ありがとう' と言ったはずです。
挨拶は同じコミュニティに属している者同士の中で当然のマナーだと思います。
そしてマナーを伴わない態度は傲慢に思われます。

当校は昨年DPで平均が38を超えました。これは世界的にも驚くほど高い成績です。そして過去3年間に渡って日本のインターナショナルスクールでトップの座を維持しています。
しかし、どんなに成績がよくてもマナーが出来ていなければ世の中で通用しません。
人間関係をきちんと築けないからです。どうかこの問題をご家庭で話し合ってみて下さい。

Yoshishige Komaki
Board President

Japanese New Year Party

1月31日には恒例のJapanese New Year Partyを実施しました。今年のpartyは月末の開催になりましたが、お天気にも恵まれ、日本語科チームを含め、皆イベントを楽しみました。

これまでの年と同様に、木瀬部屋の力士の皆さんがKISTの生徒と相撲をとったりなどの交流のために大勢いらしてくださいました。力士の皆さんは相撲だけでなく、生徒たち相手に餅つきの実演もしてくださるなど、イベントに大いにご協力くださいました。KISTとKIPSの生徒たちにとって力士の皆さんから伝統的な行事である餅つきや相撲について学べる貴重な機会となりました。

KISTとKIPSからボランティアを申し出てくださった保護者の皆さんもイベントを支えてくださいました。保護者の皆さんにとっても、生徒にお餅を振る舞う中でこれまでよく知らなかった生徒たちや、他の保護者の皆さんと知り合う良い機会になったのではないかと思っています。お手伝いくださった保護者の皆さんに感謝いたします。皆さんのご協力なしにはイベントを実施することは出来ませんでした！今年のNew Year Party も大成功だったと思います。来年もこのイベントを実施できることを楽しみにするとともに、これからも日本の伝統や文化をコミュニティの皆さんにお伝えしていきたいと考えています。皆さんのサポートにに心から感謝しています！

The Japanese Instructional Team

エレメンタリースクールニュース

多重知性(MI)

ハーバード大学院教育研究科のHoward Gardner教授は、1983年に著した*Frames of Mind*で知性についての新たな視点を発表しました。これは、一般的にMI [Multiple Intelligences(多重知性)]理論と呼ばれ、人間の知性は一つの評価で測れるものではないと提唱しています。MI理論は、知性の発達にはたったひとつの方法しかないという考えに反対し、人それぞれにおいて、発達度合いが異なる、と提唱しています。

KISTでの指導と学習では、異なる個性や学び方に対応できるよう、様々な活動や評価方法を取り入れています。全ての生徒が異なる個性を有しているため、全員がその知性を発揮し、発達させることが出来るような機会を提供できるように配慮しています。

Gardner教授は、人間には8つの知性分類があり、人それぞれにおいて、発達度合いが異なる、と提唱しています。8つの知性分類は以下の通りです。

- 言語知性 – 言葉や文字への関心が高く、優れている
- 論理数学知性 – 数学や物事の仕組みへの関心が高く、優れている
- 視覚・空間知性 – 視覚や空間認識に優れている
- 音楽知性 – 音楽への関心が高く、優れている
- 身体運動知性 – 体を動かすことへの関心が高く、運動能力に優れている
- 人間関係知性 – 協調性に優れている
- 自己観察・管理知性 – 自分を把握する事に優れている
- 自然共生知性 – 植物や動物への関心が高く、自然順応性に優れている

すべての児童・生徒は持って生まれた才能と、未発達の能力を有しています。自身の能力について考え、把握することでさらなる成長のために学び、目標設定することが出来ます。ご自身のMIについて関心を持たれた方のために、多くの無料サイトや自己評価サイトが開設されています。

https://www.edutopia.org/multiple-intelligences-assessment

Gardnerが提唱したように、「どれだけ賢いかではなく、どのように賢いのかこそが重要なのです」

Kevin Yoshihara
Elementary School
Principal

[Digital image]. (n.d.). Retrieved February 1, 2018, from https://cf.ltkcdn.net/kids/images/orig/208337-2130x1812-multipleintelligence.jpg

PYPニュース

A village revisited「村で、再び」

ちょうど1年前の*The Comet* 3月号に、初等教育を村に例えた記事を投稿しました。この記事では生徒と教師との関係性についても触れましたが、それよりもコミュニティ全体との関わりについて強調しました。確か、児童は学校内外の様々な経験から知識を得ていると書いた記憶があります。前回の記事で特にお伝えしたかったのは、保護者の皆さんが教育において重要な役割を担っているということでした。しかし、今日、この記事について振り返っていると、教育プロセスのにおいて重要な役割を担っているもう一方の当事者について忘れていることに気づきました。そのもう一方の当事者とは生徒自身です。彼等が必要な材料・資料や道具を与えられ、自分自身で学習の舵取りを任せられた時に何が起こるのかを私たち周囲の大人に自ら示してくれているのです。KISTのG5生にとってのPYP Exhibitionはこの好例です。

Exhibitionは生徒たちがエレメンタリーで長い間熱心に学んできたことの集大成です。国際バカロレアの定義によると、Exhibitionでは生徒一人ひとりがプログラムの必須要素である:知識、概念、スキル、態度、そして行動を実践することを求めています。ここでの学習は、個人及びグループで責任を持って教科横断的な探究として捉えられています。成功のためには、各メンバーが自身のスキルを発揮し、寄与する必要があります。目標達成のためには個人作業やグループ作業・成果物を持ち寄り、修正を重ねて最終的なプレゼンテーションを創り上げていくのです。最終的な成果物に至るまでの判断は生徒に委ねられ、生徒たちは自らが論理的に考え抜かれた質問をすることが出来るのか、インタビューや実体験に基づいた生きた情報をどのように収集し、纏めることが出来るのか、などの能力を示します。この段階で、生徒たちがメンターや教師、アドミニ、保護者など外部から得て、自身のものとした知識や能力を自らの感性で取捨選択し、自らの意見や表現としてコミュニティに発表・還元するのです。生徒たちが行う探究の重要性や奥深さはCometの記事で簡単に語れるものではありません。ですが、これだけは皆さんに確信を持ってお伝えできます。皆さん、是非今年のExhibitionに足を運び、子供たちの創り出すものをご覧ください。そこで、「村への還元」が確実に行われていることを実感して頂けることでしょう。

今年のExhibition は4月に二日間に亘って行われます。26日の夕方には保護者の皆さんをお招きした発表の場で、次の日はコミュニティメンバーが生徒たちの努力の成果を楽しみ、祝う場となります。

Clay M. Bradley
PYP Coordinator /
Elementary School
Vice Principal

幼児教育ニュース

幼稚園での一年間は毎年、たくさんの行事や学びの場で溢れていますが、どれも保護者の方々のご協力なしではうまくはこばれていきません。私達の学校の信条の一つに、**「教育は、生徒、保護者、学校の相互の信頼と協力によって成り立つものです」**とあります。保護者の皆さんをお子さんの教育の現場に巻き込んで協力し合うことはとても重要な事です。

ここに各学年から何枚かの写真を載せました。子ども達が保護者の皆様方との交流を通して、異文化に触れたり学んだり、そしてまた、保護者の方の発表を聞いて、新しい知識を身につけたり、より多くのことを知りたいと思ったりしている様子です。子ども達のために時間を作って頂きありがとうございます。

お子さんがアフターケアーのプログラムを利用している方は気がついたかもしれれませんが、2月は近隣の中村高校、国際科の生徒さん達が、我が校の高校生同様、このプログラムをサポートしていました。KISTの高校生達は昨年より、Childcare Committee に在籍する生徒がアフターケアーのプログラムをサポートしてくれていました。今回、以前より交流のある中村高校の生徒たちも参加しKISTの小さな子ども達が楽しく過ごせるよう、ボランティア実習に来てくれました。

Before Care と After Care の場所が書かれているサインボードがこの程、変わりました。以前により、小さいものになっております。どうぞお間違えのないよう、ご注意下さい。

Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator (K1-K3) / K1B Teacher

K2Aで（中国の）旧正月を祝う

World Cultures Day の一環としてK2AではMrs Cao と Mrs Li にお越しいただき、中国での新年のお祝いについてお話いいただきました。K2Aの子供たちは、中国では幸運を呼ぶ色として赤を身につけることや、旧正月の15日間に中国では何を着て、どんなものを食べるのか、そして旧正月の起源について教えていただきました。K2A の生徒たちは伝統的なランタンを（ろうそく抜きで）作りました。このランタンは現在、K2Aのクラスの外に飾ってあります。この保護者の方にも協力いただいたイベントにより、生徒たちは異なる文化を実際に体験する機会を得ました。生徒たちは探求者として、楽しく、いろいろな質問を通して、自国と他国の文化を比べ、学ぶことが出来ました!

Catherine Wells
K2A Teacher

新年快樂
Happy Chinese New Year

新任スタッフ

The Comet 先号が発行されてから教育及び運営部門に数名の新しいスタッフを迎えました。
学校コミュニティを代表して皆さんが新しい役職とKISTでの生活を楽しんでくださることを願っています。

Rodrigo (Raddie) Capiral
Systems Engineer

Emily Cobbs
Teaching Assistant (K2A)

Yukiko Yamazaki
School Nurse

Nobuko Matsumura
Preschool Teacher (P2)

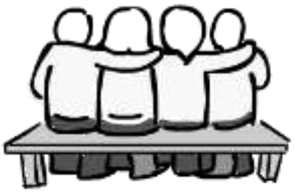
Sohta Ohashi
Support Staff

K3 Friendship Bench

昨年の探究単元‘Who we are’で、K3の生徒たち（現G1）が園庭に幼稚園版の ‘Friendship Bench’ を設置したいと提案してきました。生徒たちはこのfriendship bench（友情のベンチ）はお互いの関係や絆を深める良い効果があると考えたのです。ベンチはMs Helenの協力で、各生徒の手形で飾られました。2月13日の火曜日に短いプレゼンテーションの後でベンチは園庭に設置されました。

でも、このベンチは、設置の前にもう一つ学習の機会を提供してくれたのです！探究単元、‘How the world works’ では様々な道具について学ぶのですが、先生たちが組立説明書を「なくして」しまったので、ベンチの組み立てに子供たちの「たすけが必要」になってしまったのです。先生たちはテープやリボン、ホチキスまで使って何とか部品を組み立てようと奮闘しました。そしてK3の生徒たちもリボンをもっときつく巻いたり、テープをもっと使うなど、アドバイスしてくれました。最後に、生徒たちがねじ回しや釘が必要だと教えてくれたので、作業がとっても上手くいきました！

The K3 Team



G4ウォーターバルーンドロップチャレンジ

2月9日の金曜日、Grade 4 の生徒たちは物理法則をテストする ‘How the world works’ 研究とコンテストのイベントに参加しました。生徒たちは、さまざまな高さから落ちたウォーターバルーン、水風船、を保護する独自の装置を自宅で作成することを任されました。大きさと質量に関するいくつかの基本的な法則を除いて、生徒は自由に創造的で革新的な装置を製作しました。

デザインの多くは非常によく考えられ、落としたときに水風船に作用するさまざまな力を明確に認識していました。エレメンタリー校舎の2階のバルコニーからの実験で多くの装置が成功しましたが（確かに幸運の要素もありましたが！）、4階と最上階からの実験では13個の装置だけが成功しました。しかし、各生徒がどのくらいの競争心を持って参加したかにかかわらず、全員がこの実験を楽しむために結束していました。

Bethan Thomas and Bart Miller
Grade 4 Teachers

This article was translated by Heizo (G10B).
この記事はG10B Heizoが翻訳しました。

G3算数能力診断テスト

保護者の皆様こんにちは！G3の算数診断テストに関して重要なお知らせをがあります。従来通り、このテストは学年度の中で比較的早い、3月14日に予定されています。

算数能力診断テストは、教師が生徒の算数能力を的確に理解し、生徒が苦手とする分野において確実にサポートを提供するためのデータ収集を目的として実施されます。また、生徒がこのテストの準備をするにあたって、サポートをされる保護者の皆様にも有益と思われる記事を見つけました。この記事は英国のウェブサイトからのもので、学齢期の児童を持つ保護者に向けたアドバイスです。要点は以下に挙げましたが、記事の全てをご覧になる場合は下記のリンクからどうぞ:

https://www.theschoolrun.com/10-top-tips-sats-revision

この記事が皆様のお役に立てれば願うとともに、3年生のテストでの健闘を祈ります。

Oliver Sullivan
Elementary Literacy and Numeracy Assessment Coordinator / Grade 3A Teacher

生徒がテストのために復習することは簡単なことではありません。でも心配はありません。「親業」エキスパートのSue Atkins氏が、生徒達が全力で頑張れるように、サポートをされる保護者を対象に様々なアドバイスを提供してくれています。

- **スケジュール／予定** お子さんが復習できるよう、家族のスケジュールを調整すること
- **ポジティブでいること** お子さんが復習しているときに、揚げ足取りや責めることなどは決してしないこと。気さくに声をかけて力になれるようにしよう。
- **正しい環境作り** 家が勉強するにあたって適切な環境であることを確認しましょう。年下の弟妹がいる場合は復習の邪魔をしないことやテレビの音量をうるさくない程度にしましょう。しかし、生徒によりますが音楽で勉強の効率が上がることもあります。
- **一日の始まりを気持良く迎える** 毎朝、心のこもった朝食を用意することで新しい一日を迎える活力が生まれます
- **励ましを与える** 冷静に、前向きで、勇気づけることが大事です。お子さんの努力を尊重し、どんな時でも手助けし、大好きであると伝えましょう。
- **楽しい時間を共に** 時には、お子さんと一緒に笑いましょう。笑顔でいることも、お子さんのためになります！

This article was translated by Tomoyuki (G10A).
この記事はG10A Tomoyukiが翻訳しました。

過去の試験問題＆採点基準・回答
無料で入手可能！

IB DP
http://exam-mate.com/pastpapers/?cat=7
EDEXCEL IGCSE
http://exam-mate.com/pastpapers/?cat=4

豆まき（K1～K3）

今年もK1、K2、K3の子どもたちは、まめまきを行いました。黄色い紙粘土で、一生懸命にまめまき用のお豆を作って乾かしました。鬼や病気が遠くへ行くように、そして、福や良い運気が運び込まれるように祈りながら作りました。まめまきの当日は、青鬼さんと赤鬼さんたちに向かって元気いっぱい「おにはそと！ふくはうち！」と、大きな声で唱えながら黄色いお豆を全部投げました。

日本の文化クラブ

クッキング「恵方巻き」

昔は、立春を1年のはじめと捉えていたので、節分は大晦日と同じに考えられていました。その日に巻きずしをまるかじりすると、その年は幸運が巡って来ると言われていました。恵方とは、福徳の年神様がいるところで、毎年変わります。生徒達は、慣れない手つきでのり巻きを作り、今年は南南東やや右を向いて黙って食べながらお願い事をしました。

本当にゴミ製のオーケストラ

G4 の生徒たちは現在、リサイクルした素材だけでどうやって楽器を作れるかについて探求しています。UoI（探究単元）の一環として、生徒たちは既存の、そしてオリジナルの楽器をデザインし、製作しています。

保護者会（CA）ニュース

イベント委員会

今年も木瀬部屋様、学校スタッフ、保護者ボランティアの皆さんの多大なるご協力により、盛大なJapanese New Year Partyとなりました。

私達CAは保護者ボランティアの皆さんと協力してお餅つきを担当しました。前日から大量のもち米を洗い、当日は早朝から釜に火をつけもち米を蒸し上げていきます。蒸しあがったもち米を、小さな子どもたちはお相撲さんの助けを借りながら両手で杵を持ち、「よいしょー」の元気の良いかけ声に合わせて懸命に杵を振り下ろし、お餅をつきあげていきます。つき上がった餅は、「あんこ」「きなこ」「海苔醤油」にしていただきました。

子どもたちはその場で正月気分を味わいました。ご協力いただいた力士の皆さんはとてもフレンドリーで、生徒と一緒に写真取ったり、持ち上げてくれたり、笑顔の絶えない「お餅つき」でした。

Yu Iori
CA Events Committee

Positive Discipline（肯定的なしつけ）

2月の3日と4日に国内で行われたPositive Discipline（肯定的な躾）のワークショップに参加してきました。

Positive Disciplineは児童・生徒が責任と敬意を持った社会に有為な人材となるよう指導していくためのプログラムです。このプログラムは「躾は教えるべきものだ」という考えに基づいており、躾によって好もしい行動や態度、社会性や生活力が身につくと考えられています。Positive Discipline に基づいた保護者や教室での実践モデルは互いに敬意を持った関係の構築を目指しており、保護者・大人には、子どもに優しく且つ毅然とした態度で接するように指導し、懲罰的であったり、放任主義にならないように心がけるよう伝えています。

ワークショップでは、子どもの行動や態度と、その奥にある精神的なメッセージの関連性を知ることの重要性が繰り返されました。また、自分自身を理解し、良い面も悪い面も受け入れることの大切さについても強調されました。

私たちは無意識に他者の意見や行動を自分の都合のいいように操作しようとしています。ここで心がけなければならないのは、誰も他の人間に指示されることを好まない、ということです。このような指示は人間関係にマイナスの影響を与えるだけです。その代わりに、私たちは良好な関係を築くために、共感の心を持って、自身の行動を変えるようにするべきなのです。

生徒たちに対し、この素晴らしいプログラムを本格的に実践する前に、Mr Sullivanにお願いし、G3Aのコミュニティサークルで “Top Card” というアクティビティを行って頂けるようお願いしました。このアクティビティは自身の長所や短所を知り、チームとして、特に短所のの克服方法を探るものです。これはSEALプログラムのテーマ、“Good To Be Me” とも親和性があるため、実施には最適のタイミングでした。

生徒たちは自身の性格や態度が同級生や社会、又は精神的にどのような影響をもたらすかについて考えました。そしてグループ全体で、どのように自身の殻を破り、より良い周囲との関係を築くためにどのようなアプローチを取るべきかについて話し合いました。生徒たちはこのアクティビティを楽しみながら重要な社会スキルを学びました。

Positive Disciplineは保護者のために作られたプログラムでもあります。もし、興味がおありでしたら、是非私までご連絡ください

Kana Furnival
Elementary School Student Care Coordinator / G3 ELS Instructor

It’s Good to Be Me（あるがままの自分）

別人になれたら良かったのに、と思ったことはありませんか？もしそうなら、それはその人が自分より才能豊かだったり、優れた外見をしているからですか？それとも、友だちに何か言われたことが原因ですか？でも、自分自身の持っているものや長所に感謝し、あるがままの自分を受け入れてみましょう！

私達は現在コミュニティサークルで、“Good to Be Me” というテーマに取り組んでいます。このプログラムはエレメンタリースクール全体にとても有効で、K3Aの生徒たちと同じ取り組みを、高学年であるG3Bの生徒が行っていることに感動しました。

あなたも自分を認め、受け入れるポスターを作ってみませんか？

Kana Furnival
Elementary School Student Care Coordinator / G3 ELS Instructor

エレメンタリーELS

2カ国語読書：子どもの執着・関心を活かす

「私達は読むことで読書を学びます。その他の方法は存在しないのです。本を多く読むことで子どもは読書の習慣を身に着けます」

「生徒たちに好きなものを選ばせる・読ませることが重要です。これが読書をする上で鍵になります。生徒たちは興味をもったものをよりよく読む傾向があります」

—Richard R. Day, Dept. of Second Language Studies, University of Hawaii

保護者や子供たちに多言語を指導する教員にとって、子供たちが自身の母国語や一つの言語のみで読書しようとしている時に矛盾を感じることはありませんか？どうすればもう一方の言語でも読書に親しむように誘導できるのでしょうか？勿論、全てを解決できる答えを出すことは出来ません。しかし、「2言語読書」をする機会を提供することで、読書をする時にバランス良く言語を選ぶ助けにはなるかもしれません。"Dual-language reading"（2言語読書）は全く同じ本を2つの言語で読むことです。児童書や漫画がどんどん多言語翻訳されている今、この機会は広がっています。例えば、人気のある日本、韓国、中国の漫画は数多く英語に翻訳されています。（日本語から英語に訳された漫画の膨大なリストがWikipedia (https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_manga_licensed_in_English)にも載っています。漫画の良いところは、大抵シリーズ物なので、一回読み出して、そして気に入ったら、ある程度の期間継続して読書をすることになるという点です。また、シリーズ物に「ハマる」ということは新しい単語に繰り返し触れることにも繋がります。なので、お子さんが特定のシリーズ物や、作家、題材に「ハマって」いることを好機と捉え、同じ本・漫画を是非2言語で揃える事に協力してあげてください。

Nami (G5B) と Haruka K. (G5A) は最近お気に入りの漫画シリーズを英語と日本語で読んでいます。Nami は、「英語と日本語で読むと、日本語で知っている言葉を英語と比べることが出来るのでいいと思う」と言っています。

参考文献及びリンク先:

上記 Richard R. Day の引用は氏自身の Oxford University Press's Teaching English Language Global Blogのものです：https://oupeltglobalblog.com/2017/01/11/extensive-reading-and-language-learning/

また、Rosetta Project という団体が英語の児童文学の翻訳を無料でウェブ公開しています：http://www.childrensbooksonline.org/library-translations.htm 幾つかの作品はかなり古いものですが、今でも子供たちが楽しめる作品も揃っています。

最後に、KIST 図書室でも幾つかの作品を2言語で揃えています。また、エレメンタリー図書室でも**窓ぎわのトットちゃん**: ***Girl at the Window*** の英語、日本語、韓国語版を所有しており、LMCでも世界の文学作品を2言語で揃えています。

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator / G5 ELS Instructor

第63回東京都読書感想文コンクール

第63回東京都読書感想文コンクールにおいて、**Lisa**さん(G3B)、**Ryo**さん(G5B)の作品が優秀な作品に選ばれました。おめでとうございます。AssemblyでMr Bradleyから表彰状を授与したときの様子です。

KIPSニュース

From the P1 classroom...

こんにちは。P1クラスは2週間に1～2回、午後の時間帯にArtの時間を設けています。

KIPSは8タームの年間カリキュラムで構成されていて、現在は4タームに入っています。制作の時間、制作を始める前に「名前を呼ばれるまで遊んで待っていてね」とお話したら、遊びながら待てるようになりました。お部屋のゲートから友達の制作を行っている様子を見ている姿も見られます。これからの成長が楽しみです。

P1では、季節の行事に合わせて子どもたちと一緒に制作活動を行います。年度初めは、保育者と一緒に季節の食べ物やアイスクリームの絵の上に絵の具スタンプでデコレーションを楽しみました。初めて絵の具を使用しましたが嫌がる姿は見られず絵の具スタンプを楽しみました。次にハロウィン制作でかぼちゃのお面と猫ショルダーバッグを作りました。かぼちゃは色画用紙で目と口を2種類ずつ用意し、猫のショルダーバッグでは目、鼻、耳を子ども達がのり付けしました。のりを使うのは初めてでしたが、嫌がる姿は見られず、うまくできない場合は保育者が一緒に手伝いました。クリスマス前にはクリスマスリースとクリスマスツリーを制作しましたが、子ども達は楽しみながらもとても集中して、作品を仕上げました。節分制作で鬼の顔と髪の毛にみんなでクレヨンを使って色塗りをしました。鬼の絵は節分のときにはボールで豆まきを楽しみました。

乗り物の車と電車をみんなで作るのに、まずは大きなダンボールを乗り物の形に切って、次は子ども達がクレヨンで塗って、最後に車と電車はお大きめのダンボールの箱に固定をして乗れるようにしました。完成すると、「出来た！」と嬉しそうに保育者に話す姿や作品に触れる姿も見られました。友達と仲良く箱に入っている姿が微笑ましく感じました。

クレヨンを口に入れそうになったり、包み紙部分を剥がしてしまうなどが以前は見られましたが、制作前に注意事項を話すとみんな注意を守って作業することができるようになりました。スタンプ作業でもペットボトルのキャップを2個つけたことで、子どもたちの手でも握りやすく使いやすくなったので、集中力も上がり制作意欲を掻き立てました。ダンボールの乗り物はみんなが順番で入れるようにし、順番を守ることを子どもたちにお話しました。最初は順番を守るのが難しかった子どもたちですが、徐々に慣れていき順番を守って入る事ができるようになり、子どもたちの成長を日々感じるところです。

これからも制作を通してマナーを守れる子どもたちの社会性を育むとともに、物を作る楽しみなどを分かち合えるように楽しんでいきます。

Hitomi Shimizu
P1 Teacher

次のページに続く

前ページの続き

From the P2 classroom...

はじめまして！ Nobuko Matsumuraです。1月からKIPSに仲間入りしました。児童英語教育科を卒業し約10年ほど日本のインターナショナルプリスクールに勤務していました。その後再進学をし、幼稚園教諭免許と保育士資格を取得し保育教諭となりました。子ども達が安心して楽しく生活できる環境づくりや、子ども達にとっての最善の利益追求に励んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

P2の子ども達は、プレイタイムにお友達とおもちゃをシェアしたり、ランチタイムには苦手な食材でもお友達の食べている姿を見て思い切って食べてみたりして、だんだんと自分の周りの人々を意識して生活している姿が見られます。お散歩中に立ち寄った図書館やお寺の境内で静かに過ごすなど、公共のルールについて学ぶ姿も見られ、社会性が育っているなぁと感じています。

その最中の1月下旬、KISTのNew Year Partyに参加する機会がありました。今回は、お相撲さんに"Hello!"などと挨拶をする姿が見られ、一緒にニコニコの笑顔で写真を撮ることが出来ました。いつもスクールに居るわけではないゲストとの関わりも楽しめるようになっています。そして、実際にお相撲さんと一緒に重い杵を手に持ってお餅つきの仕方を体験することも出来ました。事前に映像等でお相撲さんのお餅つきについて鑑賞していたので、子ども達は本物を目の前にして目をキラキラと輝かせていました。

そして2月には節分行事もありました。子ども達はまず、Japaneseの時間に紙粘土で豆をたくさん作りました。細かい作業でも、みんなとても集中をして取り組めるようになっています。また紙芝居で節分について学び、豆には強い力がある事を学びました。そして豆まきの当日は、自分達で作った豆を手にたくさん握り、スクールにやって来た鬼に向かって力いっぱい投げつけていました。大きな声で「鬼は外！！福は内！！」の掛け声も言えました。昨年の豆まきでは、鬼が怖くて泣いてしまったお子さんも多かったようですが、今年はみんなとても頼もしかったです。

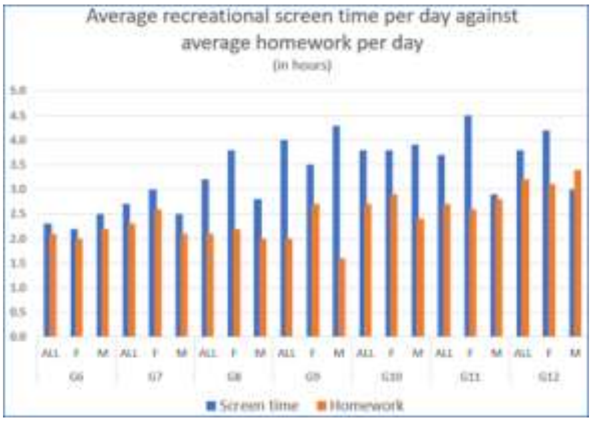
ご家庭という第一の安全基地があり、そしてKIPSという社会で暮らし、またKIPSを第二の安全基地として、もっともっと外の世界を経験しようとしている子ども達のたくましい姿に、私達保育者も日々発見や学びをもらっています。子ども達が安心して伸び伸びと生活し、どんどん生きる世界を広げていけるよう、KIPSの職員も力を合わせて保育していきたいと思います。

Nobuko Matsumura
P2 Teacher

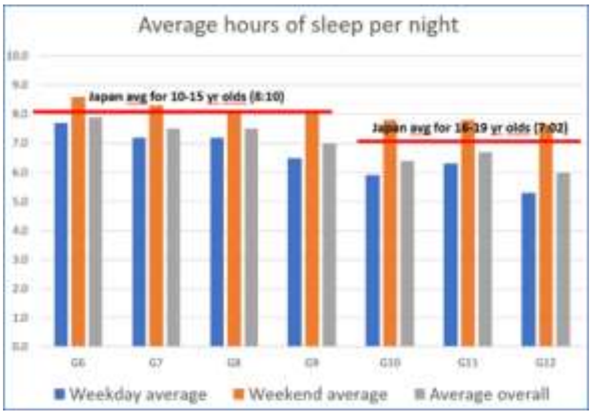
SCREEN TIME

テクノロジーの発展は私たちの仕事や生活に大きな利益をもたらしたということに賛成しない人はいないでしょう。液晶画面・スクリーン（そしてそれを用いた機器）は私たちの生活に欠かすことの出来ないものとなりました。これら機器の効果や利便性を最大限に活用するためにも、液晶画面を見ている時間を適切に管理することはとても重要な事です。

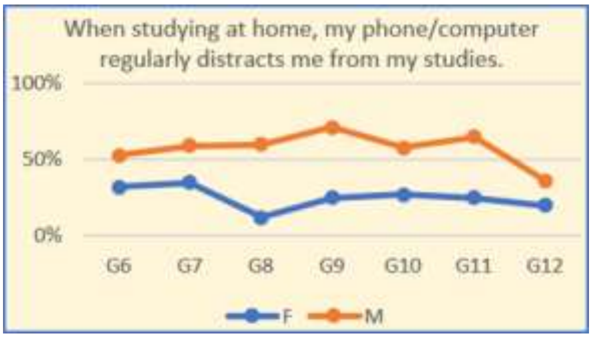
KISTでは先日G6からG12までの全生徒を対象に ‘Wellness Survey’（健康に関するアンケート）を実施しました（このアンケートの結果は後日E-Communicationでお知らせします）。学校が懸念を抱いたのは、KISTのセカンダリー生が宿題・課題よりも楽しみのために画面を眺めている時間のほうが長いというアンケート結果でした。**KISTのセカンダリー生は平均で一日3時間以上自身の楽しみのために画面・スクリーンに向かっているのです。**



その一方で、大半の学年で生徒たちはKISTが定めた時間数（学年×10～15分）にほぼ沿った形で宿題・課題に取り組んでいるとわかったのは嬉しいことでした。しかし、それでも生徒の平日の平均睡眠時間が日本の同年代の子供達より多少短いことから、生徒の一部が（宿題・課題以外で）画面に向かっている時間が睡眠時間に影響しているのではと考えています。



もう一つ、学校が注目したのは質の高い学習環境についてでした。生徒の73%が集中を妨げられない学習スペースを持っていると回答していますが、この数字は学年が上がるにつれて低下しています。G6では85%であるのに対し、G12では65%に下がっています。更に、画面の眺めている時間に関連して、見過ごせない数の生徒が勉強中に携帯やコンピュータ等のデバイスによって定期的に集中を破られると回答しています。男子生徒のほうが女生徒に比べ、この割合が高いのですが、G6～G11各学年の40%以上（G9では52%）が勉強中にこれら機器によって集中することができないと回答しているのです。



学校の調査結果は専門家による研究結果にも沿ったものです。一例として、Rosen et al. (2013) によると:

- 研究に参加した生徒たちがテクノロジー機器（ソーシャルメディアやメール）によって集中が乱されるまで平均で6分以下しかかかりませんでした。
- 課題を諦める（別の行動に移る）ことを選択した参加者は集中を妨げるようなテクノロジー機器をより多く有しており、この参加者たちは他の参加者よりも課題に取り組まないでいる確率が高い傾向にありました。
- ソーシャルメディアへアクセスしていた参加者たちはそうでないものよりも低いGPAを獲得していました。
- 確固とした勉強法を有していた参加者はより課題に集中する傾向にありました。

同様に、Junco and Cotten (2012) の研究でも:

- 勉強中のソーシャルメディアへのアクセスやメールは低いGPAにつながっています。
- ソーシャルメディアの使用中に勉強する「ながら学習」はGPAに悪影響を及ぼしています。

この関係性について同様の研究は他にも多く存在します（この研究結果への反論記事は見つけることが出来ませんでした）。

大人であってもテクノロジー機器によって集中を乱されるのですから、子供たちが適切にその使用を管理する事が難しいのは当然です。大人によるサポートが必要なのです。

次のページに続く

前ページの続き

保護者として、子どもが勉強中のテクノロジー機器の使用に責任を持てるよう、どのようなサポートが出来るのでしょうか？以下にいくつか提案があります。

- お子さんに、機器の使用による悪影響について伝え、適切な管理や監督の必要性について話し合う。
- お子さんに集中を乱さない学習環境を提供する。お子さんが宿題や課題に取り組んでいる時はテレビを消し、デジタル機器を片付け、お子さんに話しかけるなど邪魔をしないようにしましょう。
- お子さんのデジタル機器の使用を監督しましょう。これに関しては多くの参考となる資料・機器があります。**Screenagers website** に保護者の方が使用できるアプリが紹介されています。
- **KISTでのSCREENAGERS上映会にいらしてください**（下記の広告をご覧ください）上映会は4月13日の午後5時半からです。是非、子供たちが直面している状況と、危険性について学んでいただけたらと願っています。

Jeffrey Jones
Head of School

Rosen, L.D., Carrier, M., & Cheever, N. A., (2013). Facebook and texting made me do it: Media-induced task-switching while studying. *Computers in Human Behavior*, 29 (3), 948-958.

Junco, R. & Cotten, S.R., (2012). No A 4 U: The relationship between multitasking and academic performance. *Computers & Education*, 59 (2), 505-514.

SCREEN AGERS

GROWING UP IN THE DIGITAL AGE

お子さんたちが素早い指さばきでひたすら画面をスクロールし続けるのをいつもご覧になっているのではありませんか？そしてその子供たちの集中力が6分以下なのには気付いていらっしゃいますか？医師であり、映画監督でもあるDelaney Rustonは自身の子供たちが一日平均6.5時間も画面に釘付けになり、上記の特徴を有しているのを目の当たりにしました。彼女は画面を見続ける時間と、家庭や学校で起きている「摩擦」との関連性について考えるようになりました。

Delaneyによるメンタルヘルスを取り扱い、賞を得ている他のドキュメンタリー同様、彼女は**SCREENAGERS**でも、非常に個人的なアプローチを取り、自身を含む家族の生活に深く切り込み、ソーシャルメディア、ビデオゲーム、学習やネット依存の問題に取り組んでいきます。作家や心理学者、脳科学者による驚くべき事実とともに、心痛むエピソードや、思いがけず楽しいエピソードを織り交ぜ、テクノロジーと接する時間が子どもの発達に与える影響や大人がどのように子どものデジタル依存を退け、バランスの良い付き合い方を提供できるかについて問いかけています。

映画の予告編はこちら

UPCOMING SCREENINGS

4/13/2018 K. International School Tokyo, Koto City, Japan

上映開始は5:30 pmから

KIST の保護者（成人）のみ対象- 生徒は授業時間中鑑賞します

（日本語字幕あり）

（ワンコイン＋Habitat for Humanity Clubへの寄付でチャイルドケアを提供します）

座席予約はこちら

上映会の提供は:

皆様のKIST Community Associationです

MYPニュース

G9とG10 がプレゼンター（左から）Mr Cely、Natasha、Tom、Marlinah、Jin II、Ms Evelyn と Sophiaの話に熱心に聞き入っています。

MYP生がWorld Cultures Dayのセミナーに参加

G9 とG10の生徒たちはLMCでの生徒主導セミナーへの参加で World Cultures Day を締めくくりました。**Marlinah** (G10B)の司会で行われたディスカッションでは 言語、アイデンティティ、文化や国際理解など多岐に亘る分野について活発な意見が交わされました。DP生の **Sophia** (G11B)、**Tom** (G11B)、**Natasha** (G11B)と**Jin II** (G11B) が自身の生活と、複雑で豊かな言語や文化体験を通してどのような経験を積むことが出来たのかについてそれぞれ話してくれました。この場には生徒の他にMYP 教師のMr Cely と Ms Evelynも参加され、自身の豊富な体験についても共有してくださいました。
様々な異なる分野について触れる機会に恵まれたこのディスカッションは生徒にとっても貴重な経験になりました。

SmartBOWL

1月20日の土曜日に数人の生徒が SmartBOWL 他校とのクイズ大会に参加しました。これは地域の方との交流をも支援するためのものです。参加した生徒たちにとっては長い一日になりましたが、生徒たちはKISTの代表としての役割を立派に果たしてくれました。

参加者のうち2名、**Ethan** (G9B) と **Sidaarth** (G9B)は学生クイズ部門で決勝に進出し…優勝しました！ また、素晴らしい商品も獲得しました。**おめでとうございました！！**

聴衆にも、クイズに答えて商品券をもらうことで出来る機会が提供されていました。以下の生徒たちはこれに参加し、賞品を獲得しました！**おめでとう！！**

Arnav (G6B) *Ewan (G4B)* *Sidaarth (G9B)* *Remi (G6B)*

The Team

(L>R) Kian (G6A) and Shreyas (G6A)

(L>R) Varun (G7B), Aditya (G9B), Yugandhar (G9A), Miss Green, Kishore (G8A), Sidaarth (G9B), Ethan (G9B)

Riju (G9B) *Shaunak (G6B)* *Simba (G6B)* *Ayaha (G7A)* *Hamsika (G7A)* *Heet (G7B)* *Ishaan (G9B)*

Louise Green
SmartBOWL Coordinator / Brain Bowl Advisor
MYP Mathematics Teacher

G11地理とESSの合同校外学習

2018年1月11日にG11の地理と環境科学(ESS)の生徒たちは合同で、水の再生サイクルを学ぶために水再生センターを訪問しました。最初に「水再生センター」「下水処理場」への「校外学習」と聞いた時、生徒たちは正直、あまり楽しみにする様子は見られませんでした。しかし、センターを実際に訪問してみると、使用された水・汚水がどのような過程を経て蘇るのかを知って感銘を受けました。

「私はこれまで水再生センターを訪問したことはありませんでしたので、実際に何が行われているのかを見ることが出来たのは興味深い経験でした。水の再生に関するプレゼンテーションがあり、その後でセンターの施設を見学しました。実際に自分の目で再生の過程を確認し、理解することが出来たこの校外学習は興味深いものでした」

Samantha (G11B)

「下水処理施設を訪れるというのは中々出来ない体験でした。もっといろいろな施設を見ることができると思っていたので、そこは残念でしたが、水を再生する技術には驚かされました!」

Yuuki (G11A)

私たちが日々使用するお風呂や洗面後の水は長い道のりを経て水再生センターに到達します。そしてここでの水の再生・浄化のプロセスはなかなか複雑なものです。水は長い水道管を通り、物理的、化学的、生物的な手段で浄化されます。汚染物質は除去され、その他の物質(汚物や汚泥など)は自然循環出来るよう処理されます。ここで除去された物質が、今回訪問した再生センターの敷地をを舗装するレンガになっていると聞いて驚きました。これは循環型社会の素晴らしい一例だと思います。水はこの後も多くの蒸留・浄化の過程を経て再生されます。

東京都下水局のマスコット、アース君

綺麗な水と衛生は、私たちが思うような当然の権利ではなく、恩恵です。世界の25億人が適切な水再生システムがないために衛生的なトイレを使えずにいます。パキスタンなどの国では、毎年150,000人の子供たちが不衛生な環境のために水循環システムのために下痢に苦しんでいるにも関わらず、衛生整備の47倍の費用を軍事にあてています (George, 2013)。なので、お手洗いで、使用済の水がどうなるのか考える時は、水が辿る長い浄化の課程と、私たちが日本のような先進国で享受している恩恵に感謝したいと思います。

Emiri (G11B)

Photo: Reo (G11B)

参考資料:

George, Rose. (2013, April 15) *Let's talk crap. Seriously.* [Video File] Retrieved from **https://www.youtube.com/watch?v=ZmSF9gVz9pg**

生徒の達成したことを認識し、祝う

MYP レポート

初めてKISTのMYPに触れた方は、セカンダリースクールの成績評価について戸惑われたかもしれません。

PYPとは異なり、IB MYP（及びDP）では1～7段階での成績評価法を採用しています。お子さんのセメスター成績表の2ページ目にお子さんの達成度に関する詳細な説明が記載されています。

IBでは生徒に「順位をつける」ことや、各コースごとの「平均点」を算出すること許可していません。そのため、発行された成績はお子さんの「レベル」（生徒にはビデオゲームのレベルと一緒だとよく説明しています）として理解していただけたらと考えています。このため、MYPでの成績や評価は定量的・相対評価というより、定性的・絶対評価に近いかと思います。

セカンダリスクールの皆さん、良く頑張りました

IBの成績は各コースレベルでは、より定性的ですが、MYPとDPのIBレポートスケールの性質上、生徒たちの成長や達成度を測るため、全教科 の学年単位での平均点を算出することが出来ます。この場合、平均6.0点と言うのは生徒が非常に優秀であることを示しています。

各学期ごとにMr Jones が平均6.0またはそれ以上を達成したMYPとDP生にお祝いのメッセージを送っています。今年、Mr Jonesは、MYP生58名、DP生32名にこのメッセージを送ることが出来たことを非常に喜んでいます。これは、MYP生の24%、DP生の42%が（1～7店のスケール上で）平均点6.0またはそれ以上を達成したことを表しています。皆さん、たいへん頑張りました！

更に、平均6.0またはそれ以上を獲得し、且つ、数学で7評価を得た生徒に対しては追加の祝福メッセージが送られます。今年はMYP生の7%、DP生の26%にこのメッセージが送られました。

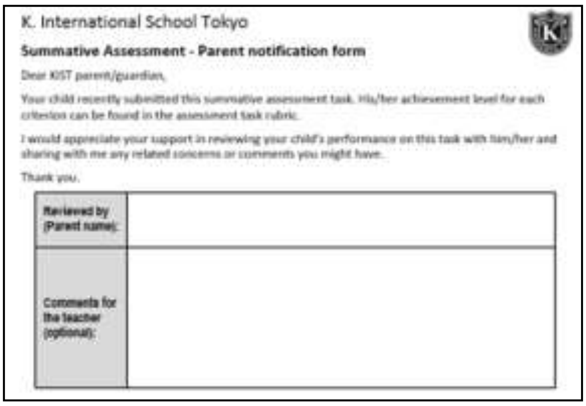
メッセージを受け取った皆さんの努力を賞賛します!

Semester 1の結果を元にKIST生に送られたメッセージは昨年度より45%増えました。
生徒、教師、そして保護者の皆さんの努力と熱意が実を結び、来年は更に多くのメッセージを送ることが出来ることを楽しみにしています。

新しいコミュニケーションツール

この度、KIST生の保護者の皆様に生徒が受けている評価やどのように評価が行われているのか、そして生徒の成績についてよりよく理解していただくために、summative assessments（総括的評価）の保護者通知フォームを新たに導入しました。

G1からG5の生徒は**探究単元毎**にこのフォームを持ち帰ります。このフォームは単元のsummative assessment課題に添付・ホチキスドメされます。



K. International School Tokyo

Summative Assessment - Parent notification form

Dear KIST parent/guardian,

Your child recently submitted this summative assessment task. His/her achievement level for each criterion can be found in the assessment task rubric.

I would appreciate your support in reviewing your child's performance on this task with him/her and sharing with me any related concerns or comments you might have.

Thank you.

Reviewed by (Parent name):	
Comments for the teacher (optional):	

G6からG10の生徒は各教科で最低でもセメスターに一枚はこのフォームを（summative assessment とともに）持ち帰ることになっています。

お子さんがこのフォームを持ち帰りましたら、課題をお子さんと確認していただき、お子さんが出来たこと、できなかったことをご一緒に振り返っていただいた後で、署名欄にサインをお願いします。また、任意になりますが、教師へのフィードバックなどもご記入ください。

これは比較的新しい試みですので、皆様のサポートをお願いいたします。このツールが皆さんのお役に立つことを願っています！ご意見がございましたら、お子さんが所属する部門のエリア校長にお問い合わせください。☺

Academic Writingでの成功!

セメスター2に入りました！ セカンダリーELSチームは生徒のライティングスキル教科のために始業前に提供しているアカデミックライティングクラスでの成績優秀者をご紹介したいと思います。セメスター1でのこれらの生徒の大きな進歩により、彼等はもはやこのクラスでのサポートを必要としませんー努力が実り、クラスを卒業する権利を得たのです。ELSチーム、そして他のスタッフも、彼等がもはや定期的なサポート無しでクラスの課題をしっかりとこなすことが出来ると確信しています。彼等のこれまでの努力を讃えます。これからも時々は顔を見せに来てくれるとうれしいです！ コースからの卒業おめでとう！

Secondary ELS Team

Lance (G6A)

構成のしっかりとしたエッセイの書き方を学びました。また、新しい語句や、ライティングで使ったほうがいい語彙についても学びました。このアカデミックライティングクラスはただ単に学ぶだけではなく、新しいことを楽しく、良い環境で学ぶための場でした。アカデミックライティングではなく、テキストを読んで設問に答えるのも、いつも楽しみでした

Leika (G6A)

A.W.では様々なトピックでレポートを書きました。そして、今クラスでも多くのレポートを書いています。A.W.のクラスで十分な練習を積んだので、今良い点を取ることが出来ています。読解などのリーディングスキルも学べたので、設問にも簡単に回答することが出来ています。A.W.でEnglishの準備が出来たし、そのおかげで今、良い成績を取ることが出来ていると思います。

Su Yeon (Helena) (G7A)

私は詳細な文章を書く時に正しい語彙を使うことが中々出来ずに苦労していました。また、レポートや論文を書くときにも日記のような文体で書いてしまったりしていたので、これらを改善するために先生は多くのレポートや論文を課題に出してくれました。最初は正直不満で、時間の無駄だと思っていました。でも、多く書けば書くほど文体が変わってきました。また、より幅の広い語彙を使って一つのことを詳しく描写する方法も学びました。アカデミックライティングのおかげでEnglishのセメスターテストやSummativeで良い成績を取ることが出来ました。

Miyabi (G8B)

Academic Writing と、そこでの適切なフィードバックのおかげで論説、書評、物語文など異なる文章・文体に自信を持って取り組むことが出来るようになりました。 また、他の教科でも役立つ幅の広い語彙を身につけることも出来ました。Academic Writing はEnglishやライティングのスキルを伸ばすためにとても役立ちました。

Sung Guk (G9A)

色々な資料やテクニックを使ってリーディングやライティングの練習をすることでソネットや論説・説明、批評文の書き方を理解することが出来ました。更に、新しい語彙や文体を学ぶことも出来ました。そして、ここで学んだことを高度なスキルや幅広い語彙・表現力を必要とするEnglish やI&Sに活かすことが出来ます。このクラスはEnglishで上を目指す為のまたとない機会を与えてくれました。

Chae Young (G10A)

Academic Writing は生徒がライティングスキルを向上させるための素晴らしい機会を与えてくれます。僕はこれまでよりも詳しくエッセイの構成や文体について学びました。このおかげで伝えたいことをはっきりと読み手に伝えることが出来るようになりました。更に、ここで学んだことを、自身の考えを明確に表現しなければならないEnglishやI&Sで発揮することが出来ました。また、授業についていくのがより楽になりました。他の教科のSummative Assessmentに必要なスキルについても取り扱ってくれることもあります。また、必要な時にいつでも質問ができるのもとても助けになりました。

集団で共感力

昨年の夏休み、Ms Aoeと私はKIST生の社会的、精神的な健康をどのようにサポート出来るのかを学ぶために、ワシントンD.C.で開かれていた1週間のワークショップに参加する機会を得ました。対人的知性及び内省的知性は子供時代から大人になっても心身の健康と幸福のために欠かすことの出来ない要素です。私達はKISTに在籍する生徒たちが学力的に成功するだけでなく、彼等が共感力を持ち、社会性を発達させることができるよう、どのようにサポートすればいいかについて学ぶためにこのワークショップに参加しました。

ここで学んだことの一つは非常に啓発的で有効と思われるものでしたので、即座に実行に移そうと決めました。これはOpen Sessionと呼ばれるメソッドで、今のところ大きな成果を挙げられていると思っています。

Open Sessionとは、生徒が他の生徒達と実生活伴う問題点や決定について話し合うフォーラムです。生徒は問題や心配事、個人的な喜び、嬉しかった出来事、相談事などを無地のカードに書き込みます。このカードは匿名でも、記名でも提出できます。このカードに書かれたことへの返答・回答法には明確なルールが設けられており、教師はファシリテーターに徹します。生徒はこのカードに対して以下のように返答・回答できます。

- **サポートと激励の回答**（例「あなたの周りの人は皆あなたのことを気にかけている」「学校での状況が良くなるように祈っています」「辛いよね」「同じようなことを経験したので、もしよかったら話しに来て」）
- **問題を明確に・解明するための回答**（例「もしかするとこの人が…について思い込んでいることがあるのでは」「この問題が特定のときにだけ起きているなら…かも」）
- **助言、解決策、提案の回答**（例「私からの提案ですが…」「私の経験ですが、…は役に立ちました」「文献を呼んだり色々と調べた結果…をしてみました」「母はいつも…するようにアドバイスをくれます」）

通常、カードの80～90%が匿名で提出されています。これは特別なことではありません。十代の生徒たちは匿名性を通して本当に周りを信頼していいのか、どのように信頼を育むのかを模索しているからです。このような経験を通じて生徒たちは「自分だったら・自分に起きたら」どうするかということを考えるようになります。そして社会・社交的なまたは個人的な問題や決断が、この年代の多くの生徒が直面する共通性のある問題なのだと認識するようになります。この共通認識がグループとしての一体感や共感、全体としての問題解決につながっていくのです。

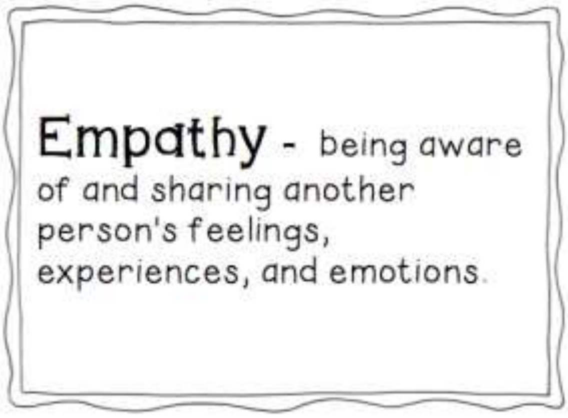
以下は生徒が提出（カードに書きそうな）しそうな問題の例です。

- 三者面談でのフィードバックが悪かったらどうしようと不安に思っています
- テストの点を自慢している人がいます。自分の点数が恥ずかしいです。
- 新しく子犬を飼うことになりました。ものすごく可愛いです。どうやって子犬に芸を教えたらいいですか？今のところ噛んだり、遊んだりしか出来ません。
- パーティを開くことになったのですが、両親が呼んでいい友だちの数を制限しています。誰の気持ちも傷つけたくないのですが、クラスにあまり親しくない人がいます。
- 自分は同性愛者なのではないかと思っています。でも友だちはそのことを理解してくれないかもしれません。なので、どのように伝えたらいいのかわかりません。
- 自分のことを好きな人がいると思うのですが、確信がありません。どのようにして確かめたらいいでしょう？
- 母と最近反りが合わないです。大丈夫なときもあるのですが、次の瞬間喧嘩になったりします。喧嘩をしたいわけではないのですが、母のすることがいちいち気に障ってしまうのです。
- 充分寝ているつもりでも、常に眠くて仕方ありません。どうしたらいいのでしょう？これは普通のことなのでしょうか？
- 誕生日が楽しみ！
- 友だちがリストカットをしていると教えてくれました。誰にも言わないでと頼まれましたが、専門家の助けが必要だと思います。

非常に深刻な問題（自傷や精神的な不安定さ、いじめなど）がカードに書かれていた場合、教師が生徒と一対一で対応したり、クラス全体で問題解決に取り組んだりする場合があります。これによりクラス担任や他の教師がクラスに介入し全体的な結束を図ることが出来ます。

この取り組みは生徒からも公表で、これからもアドバイザリーの時間にOpen Sessionを提供したいと考えています。この新たな取り組みに関してご質問がございましたら私、またはMs Aoeにご連絡ください。

Anna Holdaway
Student Care Coordinator (G6-G8)



G12 DP経済クラスの日本銀行訪問

2017年、12月11日にG12　DP経済クラスの生徒は日本橋の日本銀行、略称日銀、を訪問しました。DPで経済を学ぶものとして私達は日本経済に深い関心を持っていますーそのため、今回のこの日本の経済の中枢となる銀行への訪問にも非常に興味を持って参加しました。この訪問以前に、授業ではマクロ経済で様々な政策・方針について学び、その一つである金融政策に注目するに至りました（金融政策は国家の中央銀行のみが経済調整のために課すことが出来るものです）。金融政策と、経済界における中央銀行の役割の重要性について学んだ後だったので、私達はなおさら授業のスライドや教科書を越えた実際の経済政策と、それを生み出す場について触れる機会を持てることに興奮しました。

かなりの大人数にもかかわらず、私達は時間通りに目的地に到着し、日本銀行内部にご案内していただくのを待ちました。入館にはセキュリティーチェックと、学校IDでの登録が必要で、日本銀行が担う役割の重要性を考えると当然のことだと感じました。私は友人たちと、この建物全体から「公的な」雰囲気がしている、と何度も言い合っていたのを覚えています。案内をしてくださったMr Shinji Isakiがまず小さな部屋でパンフレットや冊子を使って中央銀行；日本銀行の歴史について説明してくださいました。その後で、東京駅の赤レンガ部分の建築でも知られる建築家、Tatsuo Kingo によって設計された旧館の写真が飾られた廊下を通ってツアーを開始しました。残念ながら、訪問時には旧館は耐震工事のために立入禁止で、実際に見ることが出来たのは新館のみでした。それでも旧館の、108年もの間金塊やお札などの保管に使われていた地下金庫について教えていただくことができました。日本銀行の歴史と、建物について教えていただいた後で、右の写真にあるように、1億円分の日本銀行券と、金塊のレプリカを持たせていただきました。Mr Isaki'sにご説明いただき、実際に内部を見せていただいたことで、中央銀行の重要性をより実感し、銀行の役割についてもっと深く知りたいという意欲が湧いてきました。ここで得た知識は5月の最終試験にも役立つと思います。

この訪問は私たち生徒が学んだことと実社会との関係を体感するまたとない機会となりました。経済クラス担任のMr Boydと Mr Nakamura、この訪問を調整してくださったKISTスタッフの方に感謝します。

Rachel (G12A)

2018 DP経済クラス

KISTセカンダリー学生オーケストラ

KISTの学生オーケストラメンバーは深川ローズガーデンで月二回、月曜日に開催される「月曜コンサートシリーズ」での演奏を始めました。オーケストラのメンバーはこのコンサートでソロ演奏を行うことで、これまでの努力の成果をコミュニティの方たちの前で披露するという素晴らしい機会を得ています。

楽器の購入のためにご寄付くださった、Mr Komaki、セカンダリーSRC、そしてKISTコミュニティの皆様に心より感謝申しあげます。2月末にはティンパニ3台とクラリネットを購入することが出来ました。引き続き楽器購入のための寄付を募っています。また、ご家庭で眠っている楽器がございましたら是非寄付をご検討ください! お問合わせは Mrs Duran までお願いいたします。

KISTセカンダリーオーケストラの情報を「お聴き逃がしなく」。そして、コンサートでの演奏を是非聴きにお越しください。

Makiko Duran
MYP/DP Music Teacher

美女と野獣Jr.

皆さんのご協力のおかげで、1月から、ミュージカル「美女と野獣」の公演準備のための資金を確保することが出来ました。

1月初旬に行われたオーディションには、本当に多くの才能豊かな生徒が参加し、その中からメインキャストを選ぶのは大変な作業でした。本日、皆さんに以下、オーディション合格者を発表できることを嬉しく思います:

Belle – **Sara** (G10B)
Beast – **Conan** (G10B)
Mrs Potts – **Srinandhitha** (G7A)
Chip – **Mirea** (G3A)
Lumiere – **Maya** (G6A)
Cogsworth – **Rebecca** (G5A)
Babette – **Emani** (G10B)
Madame de la Grande Bouche – **Saanvi** (G7B)
Maurice – **Rintaro** (G6B)
Lefou – **Riu** (G4A)
Gaston – **Thilo** (G9B)

5月11日(金曜日)に深川江戸資料館で行われる公演に、多くの方がお越しくださることを願っています。詳細は後日E-Communicationsでお知らせ致します。

Makiko Duran
MYP/DP Music Teacher

ジャパンメトロポリタン模擬国連大会

高等部代表から見たJMMUN 会議

KISTは、先日初めて4th annual Japan Metropolitan Model United Nations Conference 第4回ジャパンメトロポリタン模擬国連大会(JMMUN) 参加しました。14名の高等部生と、2名の中等部生からなるKIST MUNクラブのメンバーたちは2月の10日と11日に、川崎市の洗足学園で開催された2日間の模擬国連会議に出席しました。不思議なご縁で、今回主催の洗足学園の生徒たちにとっても11月にKISTで行われた模擬国連会議が初めて参加した会議でした。

JMMUN会議で、参加者は世界経済フォーラムのスタッフであるMr Fabien Clercの基調講演を聴講し、世界のリーダーと氏の関わりについての興味深いお話に聞き入りました。氏がビル・ゲイツやビル・クリントンと偶然お手洗いで出会ったときのことなど、びっくりするようなお話を楽しみました。この講演で始まった2日間の会議は終始活き活きとした楽しい雰囲気に包まれていました。

会議はレベルごとに4つの分科会に分かれており、32校の320名の代表者が参加しました。高等部の代表者たちが先進国での貧困問題の解決策を提案する傍らで、中等部の代表者たちは自分たちが代表を務める国家の持続可能エネルギー問題への対応や立ち位置について草稿を練りました。代表者たちは他のインターナショナルスクールや日本の学校から参加した生徒たちと交流を深めながら白熱した議論を繰り広げました。最後には、実力があり、準備にしっかりと時間を掛けたKIST MUN チームは最優秀方針書賞と2つの優秀賞を獲得しました。皆さん、良く頑張りました！

Yuki (G11B)

中等部代表者の感想：

“ディベートのグループに分かれた時、あまりに多くの国から多くの代表者が参加していたので、驚いて、少し緊張してしまいました！でも他の代表者との議論で発言しているうちに、与えられた問題について議論を交わし、時には反論し合うことの楽しさや興奮に気づき、まるで本当の国連の代表者あるような気分を味わいました！議長（生徒の代表）はとても優しく、楽しくサポートしてくれて、2日めには照れや、恥ずかしさを忘れ、効果的な解決策を見出すために他の代表者に積極的に話しかけることが出来るようになりました」

中等部代表 Hanna (G8B)

“議論が行われている部屋に入ると、Hannaと私はその場の雰囲気に気圧されていることを認めざるを得ませんでした。議論の多くが日本語で行われていたので、日本語があまり話せない私は、少し圧倒されてしまいました！私たちが直面していたのはよく言われるような言語の壁ではなく、コミュニケーションの障害でした。会議中、常にそのことについて考えざるを得ませんでしたが、全体的にはとても楽しく価値ある経験でした！来年高等部生としてJMMUNに参加する時にはもっと自信を持てると思います！」

中等部代表 Mehak (G8A)

JMMUN総長と、方針書優秀賞を受賞したインド代表のYuki (G11)

優秀方針書賞を受賞したナイジェリア代表のMehak (G8A) と Hanna (G8B)

基調講演者である在日スイス大使館一等書記官Keynote speaker Mr Fabien Clerc氏と、スイス代表のYukino (G9A)

最優秀方針書賞を受賞したエストニア代表のJi Hye (G10A)

2018 KIST JMMUN 代表団

G9 NABへの郊外学習

G9 の生徒たちは2月19日にNational Australian Bank (NAB) を訪問しました。日本橋室町のNABに到着すると、まず、銀行業務についてご説明いただき、銀行がどのようにグローバルな業務を行っているのかや、銀行の様々な役割や機能について教えていただきました。

NABでは数名がI&Sと経済のクラスで纏めたビジネスプランを発表する機会に恵まれました。選ばれたグループが2名の銀行家の方の前で発表を行い、質問に答えました。学校での発表と違い、生徒たちは何年もの経験のある、実際の銀行家の方から直接フィードバックをいただくことで、実際の投資の世界で発表するということを実感することが出来ました。

この経験から、私は実際の投資家がどのような基準で物事を判断するのかを学ぶことが出来ました。私自身は今回発表することはなかったのですが、起業をする際の心構えや準備について学ぶことが出来ました。今回の訪問はとても楽しく、新鮮な体験で経済というものの概念を深く理解する良い機会になりました。

Michiko (G9B)

運動部最新情報

ISTAAバスケットボール

シーズンも後2週間で終りを迎えますが、KIST CometsにはU-14女子、U-14男子、U-18男女チームが揃い充実したシーズンとなりました。ISTAAにも新たにLFIT (Lycée Française International de Tokyo) が加盟し、更に全体的なレベルが上がりました。

U-18男子は怪我や1月末での上級生の引退などで波乱のシーズンとなりました。6チームからなる ISTAA トーナメントでは、(コロンビア)との試合に勝てば、3位、負ければ5位という結果がとなりそうです。U-18女子もコロンビアとBSTとの試合を残し、ほぼ同様の結果となりそうです。

U-14 女子はコロンビアとの接戦の末に今年はじめての敗北を味わいましたが、まだ幾つかの試合が残っています。U-14男子はキャプテンの **Kaiser** (G8A) の活躍とメンバーの努力の結果今のところ(LFITとの大接戦、62-61を入れて)昨シーズンから負け知らずです。

ISTAAシーズンも終わり近づいているCometsバスケットボールチームの善戦を祈ってください！

U-14男子Comets

水泳

冬の関東地区水泳大会でKIST代表として出場した **Igor** (G11B)が15歳から18歳までの部の50メートル背泳で金メダル、50メートル及び200メートル自由形で銀メダルを獲得しました。総合優勝に必要なチームリレーに参加できなかったにも関わらず、彼は総合でも5位という好成績をおさめました。**Igor** と **Tom** (G11B) は3月のSt Mary'sとの大会にもKISTを代表して出場します。彼らの幸運を祈りましょう！

Igor

Tom

セカンダリーSRC

今年は、SRCの選挙で始まりました。
その結果は：

President
Krisha (G11A)
Vice President
Chae Hyun (Alice) (G11B)
Secretary
Marlinah (G10B)
Treasurer
Nimit (G10A)
Public Relations Officer
Akino (G10A)

左から右：Nimit, Akino, Krisha, Alice, Marlinah

そして、新しいクラスの代表も選ばれました。

G10A – **Hinako**

G10B – **Gaon**

今年もSRCにとっては、KISTオーケストラのための資金調達など様々なイベントの準備に追われる忙しい1学期でした。
SRCの1学期の功績—

★SRC dance — Blast from the Past（SRCダンス）
今年の最初のダンスは、100人以上が参加し、大成功でした。踊ったり、遊んだり、ピザ、ホットドッグなどを食べたり、写真を撮ったりなど楽しい時間を過ごしました。

Let your voice be heard

★Autumn Colors Free Dress Day（フリードレスデイ）
秋の始まりを楽しむためフリードレスデイがありました。生徒たちは、秋の訪れを季節の色の服を着て楽しみました。

★Comets Cheer
コメッツの試合の応援と学校の団結力を高めるためSRCは様々なチア（応援）を考えました。

★Valenlines（バレンライン）
バレンタインのこの日、SRCは、バレンラインという企画を立てました。贈り主の名前を伏せて、SRCが相手にメッセージとお菓子と一緒に渡しました。

★Train Manners Awareness Posters（電車マナー意識を高めるためのポスター）
ポスターの狙いは、生徒たちに電車、駅でのマナーを確認してもらうことです。

★Arts Committee（芸術委員会）
アートコミティーは、秋と冬の写真コンテストを企画しました。提出された冬の写真はカフェテリアの近くにあるKISTimesのボードに貼られています。SRCダンスとウインターコンサートの飾りつけなども行いました。

★Media Committee（メディア委員会）
メディアコミティーは、SRCが企画した様々なイベントのプロモートをポスターやKISTvを使い行いました。他にも、廊下で群れる危険性を紹介する動画も作りました。

★Sports Committee（運動委員会）
スポーツコミティーは、休み時間のフィールドの使い方について考えました。すべてのエリアを有効に活用して、いろいろなアクティビティができるようにしました。恒例のKIST League（キストリーグ）では、生徒たちがドッジボールをして楽しみました。

これからも、SRCは楽しいイベントを企画しますので、お楽しみください。

Secondary SRC

This article was translated by Shiori (G10B).
この記事はG10B Shioriが翻訳しました。

"Blast from the Past" ダンス後のSRC、アートコミティーとMr Smith

クラブ活動のハイライト

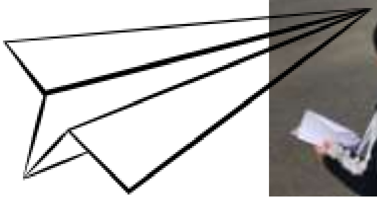
紙飛行機クラブ(エレメンタリー)

紙の飛行機を作る方法は誰も知っていますが、何種類の紙飛行機作ることができて、どれだけ違ったことができる飛行機を作ることができますか？

今回のセメスターでは、KIST紙飛行機オリンピックに最終的に入ることができるようにいくつかの飛行機の設計を共有したいと考えました。正確に飛んでいるのか、どれくらい速いのか、距離はどれくらい飛ぶか、どのようなクールなトリックができるのかを審査します。

このクラブは、数学的、科学的、芸術的なスキルを使用して学び、教え、協力する素晴らしい機会です。これまでのところ学生は楽しい時間を過ごしていますし、彼らもまた私に教えてくれると確信しています。

Oliver Sullivan
Club Supervisor



This article was translated by Heizo (G10B).
この記事はG10B Heizoが翻訳しました。

応用物理クラブ(セカンダリー)

Further Physics Club が今年度も2学期に提供されています。ここ数年、難易度の非常に高いDP試験での点数の上昇に伴い、KIST生の教科選択や将来の志望に物理が人気を集めています。1学期にも G9～G12 の生徒たちが物理室に集まり、通常の授業で学んだ知識を応用してきました。

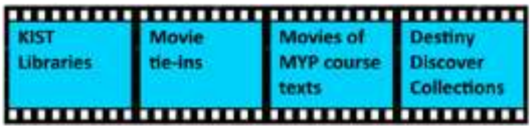
1学期に、振り子とその振幅（pendulum wave）について、長波について探求し、高調波と原子レベルのエネルギーとの関係性を学びました。また、発光スペクトルについても探求し、回折格子を通して放出される周波帯の波形の計測方法を学びました。右の写真は回折格子越しに撮られたものです。

1学期の終わりには、幸運なことに、ゲストスピーカーの方の講演で締めくくることが出来ました。このゲストは高感度検出器により、重力波を世界で初めて検出することに成功したLIGO、レーザー干渉計重力波観測所とKISTをつなげてくださいました。KISTのG1生のお父様でもあるゲストスピーカー、Doctor Stefan Ballmerは大人数のセカンダリー生の前で講演を行ってくださいました。最先端の物理学に触れられたことはその場にいた全員にとってまたとない素晴らしい経験でした。

まだ歴史の浅いクラブではありますが、メンバーは多くを学んでいます。これからも、人類が築いたもっとも重要な知識を学びたいという熱意のある生徒を迎え、人類にとって重要なテーマについて探求していきたいと願っています。

Cesar Cely
Club Supervisor

図書室ニュース



World Cultures Day 2018

World Cultures Day 2018 は今年も大成功でした。このイベントはコミュニティの皆さんのご協力なしには成し遂げられませんでした！KISTコミュニティと自身の文化や言語を共有することを申し出てくださった保護者、生徒、教職員の皆さんに感謝します。

エレメンタリーのパレードや、セカンダリーの廊下で民族衣装を着た生徒たちを見ることが出来たのも大変嬉しいことでした。また、セカンダリー生がエレメンタリーを訪問して下級生に言語や踊りを教えたり、自身の外国での経験について話しているのも、互いにとって素晴らしい機会だと思いました。教職員、保護者、そしてお祖父様やお祖母様が言語や文化、音楽を生徒たちと共有してくださいました。

セカンダリーで行われた、アイデンティティーに関する座談会とパネルディスカッションではなかなか鋭い意見が交わされていました。

KISTは多彩な国際コミュニティを有しています。World Cultures Dayだけでなく、毎日多様な文化を尊重し、祝っています。図書チームはイベントを主催してはいますが、この学校を特別な場所にしているのはKISTの皆さんです。本当にありがとうございます。

Ms Hynes

Movies

興味のある特定の映画の原作やノベライズを探している人はいますか？新しい蔵書、Movie tie-insをご紹介します!
http://bit.ly/2EZUI41

映画を見る前にまず本を読みたい皆さんのためにこの本を多く揃えています。本を探している人や、蔵書に加えてほしい本がある方は是非図書チームにお問い合わせください！

Ms Erika

Destiny Discover collections

今学年度のはじめに導入されたDestiny DiscoverはKIST生に多くの資料を提供しています。このソフトはコミュニティメンバー全員がエレメンタリー、LMC、オンライン資料にアクセスするためのツールです。*The Comet*今号のお勧め資料は以下の通りです：

- **Grade 6 and 7 – 推薦図書**
  http://bit.ly/2Dip1SG
  英語科スタッフと図書チームが厳選したEnglish Language and Literature の推薦課題図書！
- **Sports – LMC**
  http://bit.ly/2ERNT1p
  伝記やスポーツ･試合に関する書籍
- **英訳された日本語作品**
  http://bit.ly/2Dbar05
  日本文学の英訳。生徒やスタッフに人気！

サイトで読んでみたい本があれば、Holdをクリックしてください。図書チームが予約として保管しておきます。ぜひ、サイトを覗きにきてください！

保護者のためのDestiny Discover

お子さんが本やオンライン資料を探すためのサポートのためにDestiny Discoverの使い方を知りたい保護者の皆さんは以下リンクからお問い合わせください。
http://bit.ly/2CGcWTf

KISTv

- **Japanese New Year Party video:**
  http://bit.ly/2EQc2JD
- **World Cultures Day Parade:**
  (To be confirmed)

Mr Tim

保健便り

保護者の皆様、初めましてスクールナースの**山崎由紀子**です。ケイ･.インターナショナルスクール東京のスタッフ一員として働くことに誇りと喜びを感じております。日本で看護師として長く幅広い分野で経験を積み、海外生活も経験しながらオーストラリアカトリック大学で看護学士号を取得しました。子どもたちが健全な学校生活が送れるよう努めます。

今回は私達の健康に欠かせない睡眠についてお話します。

睡眠とは？

心身の健康維持に必要不可欠なこと。

なぜ睡眠が必要なのか？

- 筋肉、神経、臓器や脳の休息と修復をはかり健康な体を維持する（疲労回復効果）
- 体の抵抗力（自然治癒力）を高める
- 集中力、学習能力、判断力、エネルギーレベルを高める
- 長期にわたって記憶力を維持させる

良質な睡眠が不足すると

- 私達の体のエネルギーは徐々に低下
- 疲労の原因（日中の疲労感の増加）となる
- 記憶力が低下
- 作業記憶（物事を考えるときに使う記憶）が低下
- 注意散漫になりやすい
- 集中力が低下
- 学習困難
- 沢山の昼寝が必要になる

学術的な研究によると睡眠が十分ではない生徒は作業スピード、注意力、集中力などの低下が見られたと報告されています。よって質の良い十分な睡眠を毎晩とることは子供たちの集中力、記憶力、自己コントロールのアップに繋がり学校でも実力発揮が期待されます。

質の良い睡眠をとるためには

- 睡眠スケジュールを守る （就寝と起床時間をある程度同じ時間にする。週末やホリデー中でも2時間以内のズレにする。そうすると体内時計が乱れづらい）
- 寝室にコンピューター、スマートフォン、テレビなど持ち込まず、就寝1時間前にはそれらのアイテムの使用を止める （ブルーライトが質の良い睡眠を妨げる）
- 食事は就寝2-3時間前に終えておく（睡眠中に胃が休まらず体に負担が掛かってしまうため）
- 快適な寝室環境を整える（室温、照明、騒音など）
- 就寝前にリラックスする（温めの入浴、読書、静かな音楽を聴く、呼吸法）
- 適度な運動、日の光を日中浴びるとメラトニンが正しい時間に分泌されスムーズに就寝できる）
- カフェインの多量摂取は避ける（エナジードリンク、コーヒー、紅茶、チョコレイトとコーラーなど）

必要とされる睡眠時間（必要睡眠量には個人差があるのであくまでも目安です）

3～5歳：10～13時間
6～13歳：9～11時間
14～18歳：8～10時間
成人（65歳以下）：7～9時間

ご質問などありましたらお気軽にご連絡下さい。
yukiko.yamazaki@kist.ed.jp

今後も宜しくお願いします。

Yukiko Yamazaki
School Nurse

参考資料:

- June, C.(2016). Cognitive performance, sleepiness, and mood in partially sleep deprived adolescents: *the need for sleep study, 39*(3), 687-698. **https://doi.org/10.5665/sleep5552**
- Mitsuo, Nagane. (2015). The relationship between sleep-wake cycle and academic performance or psychosomatic complaints. *Faculty of Education, Chiba University, 63*, 375-379.
- Raising Children Network: Sleep. (2018,Feb 15). Retrieved from **http://raisingchildren.net.au**

Staff 10!

Mr と Miss Otis

今月のStaff 10!では2015年8月に教師として着任した **Steven Otis** をご紹介します。Mr Otis はアメリカ出身で、セカンダリースクールの英語科主任です。

1) 出身地について面白いことを教えてください。

私の故郷はアメリカ、オレゴン州のポートランドです。ここ数年は映画やテレビ番組で脚光を浴びるようになりましたが、私がこの町で好きなのは、夏の気候と朝食です。7月から9月の気候は素晴らしいの一言です。日は長く、暖かく、晴天で、夜は涼しく過ごしやすいです。また、この町には十数件の居心地の良いオリジナリティのあるレストランが点在していて、ベジタリアンメニューや地元の肉や特産品を安価に提供しています。週末の朝に家族や友人と朝食を摂りに行っていた日々が懐かしいです。

2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

オレゴン州シスターズのBig Lake Youth Campです。私は7歳から19歳になるまで（13回の夏休み）を過ごしました。ここはカスケード山脈の高地、ワシントン山の麓にあり、ビッグレイクのpristine watersのすぐそばにあります。 私はここでウォータースキーやウェイクボード、ウィンドサーフィン、カヌー、マウンテンバイク、乗馬、ギターなどを覚えました。そして毎日一時間以上Capture the Flagをしていました！松やユッカの香りはこの楽しかった頃の思い出を呼び起こしてくれます。

3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

ミュージシャンであれば、Paul Simon と U2のBono (Paul Hewson) に会って、どれだけ彼等のことを好きで、彼等の曲や詩に感銘を受け、助けられたかを伝えたいです。作家であれば、William Shakespeareです; 彼の戯曲はとにかく楽しく、そして名作です。彼はきっと良い友人に慣れる人物だと思うのです。後は、彼女の作品から判断する限り、楽しい友人になれると思っているBarbara Kingsolverでしょうか。政治家なら、Barack Obama (理由の一部は彼が大学の同窓生であり、共通の教授や授業について語り合えると思うからです)と、Abraham Lincolnでしょうか。どちらも素晴らしい作家でもあり思想家です。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

スピーチをする時に自然と涙が出てきます。生徒たちはもうよく知っていると思います。これは人前で話すのが大嫌いだった母から受け継いだ素晴らしい才能です。

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

1993年、7年生の時に自主制作映画で端役を演じる機会に恵まれました。私が演じたBobbyは喫煙の結果肺がんになってしまった男の息子役でした。この映画は地元の病院組合が禁煙を促進するために製作したもので、私は3-4日かけて3シーンに出演しました。この時の出演料は$75で、私はこれではじめてのCD/カセットステレオを買いました。残念なことにこれが私の最後の（そして唯一の）役者経験となりました。しかし、私にとって幸運なことに、この映画はまだYou Tubeにあげられていません。

6) あなたにとって一番の宝物は？

私のギターか、音楽コレクションでしょうか。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

Caring（思いやりのある人）でしょうか。人生は非常に複雑で、困難が多く、不安なものです。でも、他の人達との関係を築くことで、生きることの喜びが生まれると思うのです。

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

この質問に答えるには紙面が短すぎます。もし、生き直すことが出来るなら、違ったことを何百も行うと思います。人生には様々なことが起き、小さな出来事の連続で、たったひとつの判断が多くの分岐を生むと思うのです。なので、もし、今の知識や経験を有したまま生き直すとしたら、間違いを恐れずにもっと楽しく、多くの人との関係を築けると思います。さらに、5年生の時に（先生の言いなりに）フレンチホルンをやるのではなく、もう少し真剣にピアノかドラムの習得を（今までやりたかったとおり）目指すと思います。

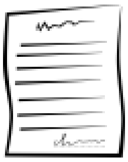
9) 自分を高めるために今やっていることは？

もっと自分の楽しみのために読書をするようにしています。私は今でも読書が好きなのですが、仕事とは別に・別の読書をしたいと思っています。多くの生徒が知っているように、現在減量に努めていて、一年の終わりを自身の理想体重で迎えたいと思っています。このために、ジムに通ったり、バスケットボールをしたり、できるだけジョギングをしたり、夕食に豆腐を食べる回数を増やすなどしています！

10) ファンに一言お願いします。

私の冗談に（大抵の場合）笑ってくれたり、授業の合間に時々踊りだす私を温かく受け入れてくれてありがとう。

オフィスアップデート



書類発行依頼

在学証明書、推薦状、成績証明書等の書類を依頼される場合の手続きについてお知らせいたします。

すべての書類発行依頼は学校オフィスで受け付けます。書類発行依頼または他校への出願（サマースクール等特別プログラム含む）に関する書類記入の依頼は全て以下リンクから入手可能な **Documentation Request Form** に詳細記入の上、オフィスにご提出ください。推薦状に関してもオフィスで一括して依頼を行いますので、個々の教師への直接の依頼はなさらないようお願いいたします。

http://www.kist.ed.jp/node/5

書類の発行には時間がかかることがありますので、出来る限り早めの依頼をお願いいたします。

大学ガイダンスニュース

KISTから日本の医学部へ初めての進学者がでました

KISTの卒業生**Haruka**（2016卒）からとてもうれしい報告です！日本の医学部に進学したいという彼女のかねてからの夢が叶いました。順天堂大学医学部の入学試験に見事合格し、今年4月に入学します。この日本のトップ医学部に入学するためには、KIST卒業後に猛勉強をしなければなりませんでした。というのも、1月のセンター試験で7科目の試験（すべて日本語）を受験し 高得点を取らなければならなかったからです。彼女を誇りに思い、これから始まる医学教育での成功と医師としての将来の活躍をこころより願っています。おめでとうございます！

日本および各国の医学部事情について詳しくお知りになりたい方は、どうぞ奥出にご連絡ください。各国の教育システム、出願の仕方、準備について個別にお話いたします。

12年生の大学出願状況と結果について

今年の12年生でイギリスやアメリカの大学に早期出願期間に出願した生徒から続々と朗報が届いています。おめでとうございます！12月末から今年のはじめにかけての通常の出願期間に出願した生徒の多くは3月末から4月には結果がわかる予定です。さらに良いニュースが届くと期待しています。幸運を祈ります！

ニューヨーク大学アブダビ校を再訪しました

アブダビのシェイク・ザイード・グランドモスクでのMrs Okude

2月にアラブ首長国連邦の首都アブダビで開催されたニューヨーク大学アブダビ校のイベントに招待され、参加してきました。アブダビキャンパスへの訪問は、2016年の10月秋休みを利用してのドバイーアブダビへのプライベートな旅行に次いで二回目でした。今回はアジア太平洋地区、ヨーロッパ、南アメリカから参加した20校あまりの高校のカウンセラーと一緒にキャンパス内を案内していただき、教授陣や学生に会って話を聞くことができました。イベントには美しいシェークザイードグランドモスクやオープンしたばかりのルーブルアブダビ美術館への訪問なども含まれていました。特に、現在再開発中のQasr Al Hosn にあるアブダビの過去と未来の展示はたいへん勉強になりました！ また、キャンパスでKISTの卒業生**Motoi**（2016卒）と**Takumi**（2017卒）に会い、話をすることができました。ふたりともこのユニークで豊かな環境で、充実した大学生活を楽しんでいるようで、とてもうれしかったです。（Motoi がこの大学について *The Comet* 2016年12月号に寄稿しています。そちらもぜひご覧ください。）

Motoi (2016) と Takumi (2017) NYU アブダビキャンパスで

同窓生トークRaj（2016卒）

2月6日のお昼休みにKIST卒業生**Raj**（2016卒）が学校に来て、慶応大学経済学部PEARLの話をしてくれました。彼はこの英語プログラムにKISTから初めて進学した生徒です。授業の様子や大学生活について語り、集まったKIST在校生にいろいろとアドバイスをしてくれました。Rajありがとう！（この号に掲載されたRajのレポートもご覧ください。）

Raj (2016)

春に開催される大学進学関連イベントについて

今年で第六回目となるKIST春の大学フェアが3月21日水曜日（生徒主導型面談日）の2時から4時まで体育館にて開催されます。今年も20以上の大学から入試担当の方や教授がお見えになります。連年と同様、主に日本にある大学で英語プログラムあるいは通常の日本語プログラムの入学試験としてIB特別入試を採用している大学をお招きしていますが、海外からもイギリスのインペリアル・カレッジ・ロンドン、カナダのライアソン大学、オーストラリアの主要な大学の入学窓口となっている大学公認エージェントも参加されます。このイベントはKISTコミュニティーの方ならどなたでもご自由に入場できます。巻末にあるポスターをご覧ください。

このほかにも3月は学校内外でのイベントがいろいろあります。ぜひ、University Guidance Calendar をチェックしてください。

イベント会場で皆さんにお会いするのを楽しみにしております。

Mrs Keiko Okude
Career and University Guidance Counselor
Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri 10:00-17:00
keiko.okude@kist.ed.jp

卒業生の声

Raj はKIST 2016年度卒業生で、現在慶応大学経済学部PEARLプログラム2年に在籍し、経済を専攻しています。

KISTファミリーの皆さん、こんにちは！ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、私は今慶応義塾大学に在籍しています。一時は真剣にこの国を出たいという強い思いを抱いたのですが、この「日出ずる処」に住んでいるうちにこの国への愛情と尊敬の念が湧き上がった来たことに気づきました。この国の人達や、文化、都市の活気はこの国への愛情を増すための要素です。そして、今、この国への愛情は私をここまで導いてくれました！慶応でのかけがえのない4年間をこの愛すべき国で過ごすことになりました。

慶応のPEARL (Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership) 経済学プログラムは全ての授業が英語で行われます。私がこのプログラムで気に入っているのは様々な背景や個性を持つを人たちがが多くいることです。KISTで国際色豊かな生徒や教職員に囲まれて学生時代を過ごすことが出来たように、大学でも日本やその他の国出身の若き企業家、州をまたいだコンテストの受賞者、革新的な技術開発者やマルチな才能を発揮する生徒など多才な仲間に囲まれています。より高く、より前に進もうとする熱意や、よい意味での野心。革新的であろうとする人々に触発され、私自身もあらゆる機会を掴み、多くの人と関わり、学びたいと思うようになりました。できるだけ多くの学生団体やサークルに参加するとともに、KISTでのSRC（生徒会)経験を元に慶応のPEARLはじめての生徒会を組織するに至りました。

学問的な話をすると、私は以前からビジネスマネージメント、マーケティングや財務に興味を持っていました。なので、専攻している経済の授業の他にもビジネスの授業を幾つか履修しています。慶応で提供されている授業はFinTech、block chain technology や automated intelligence 関連のものがあります。個人的に Fin Tech を専門としている教授と親しく接して頂く幸運に恵まれ、この分野の理解を深めることが出来ました。という幸運に恵まれ、この出会いを通して現代のテクノロジーの重要性に対する見方が大きく変わりました

卒業してから今まで経験したことについて語りたいことは尽きないのですが、KISTの後輩である皆さんに一つだけ大切な事を伝えるとしたら、とにかく自分の「好きなこと」をやるべきだ、と言いたいです。授業でも、そして人生においても、ただ時間が過ぎていくのを願うことほど無駄なことはありません。自分がしていることに本当に心から関心を持っていて、またそれに触れたいと思う時こそ、心からの喜びと満足感を得られるのだと思うのです。

宿命のライバル早稲田大学との伝統の早慶戦で（慶応運動部の旗を持った）Rajと友人

皆さんが自分の道や好きなことを見つけることが出来たら、私も嬉しく思います。皆さんの笑顔や瞳の奥に輝く情熱を見ることができたならそれ以上の喜びはないと思うのです。

自信を持って,常に笑顔で☺

Raj
KIST Alumnus, “Class of 2016”

紅葉が美しい日吉キャンパスへのアプローチ。毎朝歩くのが楽しくなります。

慶応大学2017年9月入学生の新入生歓迎会で Raj（右下）とそのクラスメート

Raj（左下）と友人たちが企画販売したパーカーを着た学生たち。これはPEARLプログラム初の商品で、70〜100名に売れたそうです！

K. International School

Spring University Fair

Date: Wednesday, March 21, 2018

Time: 2pm - 4pm

Venue: KIST Gym

Hosei University
Imperial College London
International Christian University
Juntendo University
Keio University
Kyoto University
Lakeland University Japan
Meiji Gakuin University
Musashino University
Nagoya University
Okayama University
Ritsumeikan University
Ryerson University
Sophia University
Temple University, Japan Campus
The Hong Kong Polytechnic University
Tokyo International University
University of Aizu
University of Tsukuba
Waseda University
Yamanashi Gakuin University
MEC(official agent for major Australian universities※)

※University of Melbourne, Monash University,
New South Wales University, Queensland University,
West Australia University, Adelaide University and more

KIST University Guidance Office
Mrs. Keiko Okude keiko.okude@kist.ed.jp